

週刊 **タバコの正体**

「タバコって、どんな感じ」なんて、興味本位で吸い始めてしまう子供は後をたちません。未成年者にタバコを販売することや、与えることは『未成年者喫煙禁止法』という法律で禁止されていますが、現実にはニコチン依存症の中高生が存在しています。

皆さんの多くはタバコを吸い込んだ経験がないので、「どんな感じ」という興味は湧くかもしれません。そこで、そもそも“煙”を吸いこむ事を想像してみましょう。例えばバーベキュー用の炭火をおこすと煙が出ますよね。その煙を吸い込むことなんてできますか。不意に煙が顔面にかかっただけでも、目にしみて煙たく、ゴホッ、ゴホッとむせ返ってしまいます。

タバコを吸いこむのは、こんな状態とあまり変わりません。その証拠に、くわえタバコをしている人は煙が目にしみるので、眼を細めてしかめっ面になっていますよね。そして、初めてタバコを吸いこんだ瞬間は、必ずゴホッ、ゴホッとむせ返り、頭がクラクラして吐き気さえする人もいます。

なのに、次のタバコに火をつけ、2本目、3本目・・・と続ける子供がいるのはどうしてでしょう。理由はさておき何本か吸ううちに、むせ返らずに煙を吸い込むコツがわかってきます。すると「どうだ、タバコを吸えるようになったぞ」と大人になつた気分になるのです。しかしこうなると、タバコに含まれているニコチンが脳に作用してしまい、脳はニコチンがなければ落ちつかなくなっています。これがニコチン依存症です。無理をして煙を吸い込む練習した結果、脳のニコチン切れを防ぐために、タバコを吸い続けなければならない毎日がやって来るのです。

かわいそうですよね。皆さんのようにタバコの知識があれば、「タバコって、どんな感じ」なんて思わなくて済んだはずですが、不幸にしてニコチン依存症になってしまった子供たちは、世間からの冷たい視線を感じながらも、どこかに隠れてタバコを吸い続けなければ、落ち着けない毎日なのです。

「タバコを吸える」から、大人になつたことにはなりません。むしろ正しい知識を持っている大人はタバコを吸わない時代ですから、この子供たちが、このまま大人になつても、世間の冷たい視線を感じながらタバコを吸う生活が続くでしょう。

今、そんな状況にある同世代の子供たちを、君はどのように感じていますか。

もしも友達がこんな状態なら、どうしますか。

かわいそうだから、黙っていますか。自分には関係ないから、黙っていますか。

声をかけるには、優しさと勇気が必要です。

君はどうしますか。

産業デザイン科 奥田 恭久